

1 研究テーマ

「小中連携による、基礎基本の定着や活用力を高める授業改善」

～算数科における学び合いの活動の充実を通して～ 二里小学校

2 研究テーマ設定の趣旨

本校は、平成27・28年度の2ヶ年、佐賀県「児童生徒の活用力向上研究指定事業」研究指定校として算数科指導法の研究を進めてきた。小中連携による活用力を身につけた児童を育成するため、西部型授業の流れを基に二里小学校の基本的な学習過程を設定し、その1単位時間の中で様々な言語活動の充実を図ってきた。その成果としては、「深める」段階での「2人でタイム」、「3人でタイム」を設けることで、自分の考えを説明することへの抵抗感が薄れ、スムーズに説明する児童が増えてきたことが挙げられた。

ただ、令和2年度の佐賀県学習状況調査の結果を見ると、算数科では、学年間で正答率にばらつきが見られたが、共通して「測定・変化と関係」の区分で県を下回っていて、その中でも特に説明を求められる設問の正答率が低かった。以上のことから、令和3年度も算数科を研究の中心に据え、授業の中で学び合い活動を重視することで、協働して考えることの楽しさや考えのよさに気付き、進んで表現したり、新しい知識や方法を生み出そうとしたりする児童を育てていきたい。また、学校間で連携を図ることにより、児童の分かる喜びや学んだことを活かす楽しさを高め、基礎基本の定着や活用力の向上につなげたいと考える。

3 研究内容

小中の学びのつながりのための共通の取組として、以下の2つの柱を中心に取り組んでいく。

(1) 「授業づくりのステップ」の活用

「授業づくりのステップ」の「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」において、小中共通した授業スタイルを確立する。

必要に応じて「話し合う活動」を授業の中に設定し、児童が学び合う中で基礎基本の定着や活用力の向上を図りたい。

(2) 全国・県調査問題の活用

出題の趣旨や誤答分析を行い、学校の課題を全職員で共通理解する。また、児童の実態に応じ、調査問題を活用した授業づくりを行い、教師の授業改善と指導力向上を目指す。

6 研究の組織とその内容

(1) 組織の内容と役割

① 研究推進委員会

研究全体の方向・進め方の検討・修正をし、研究の円滑な運営を図る。

② 全体会

研究内容や方法についての検討し、共通理解をする。授業研究会を実施し、その後の授業改善に活かす。

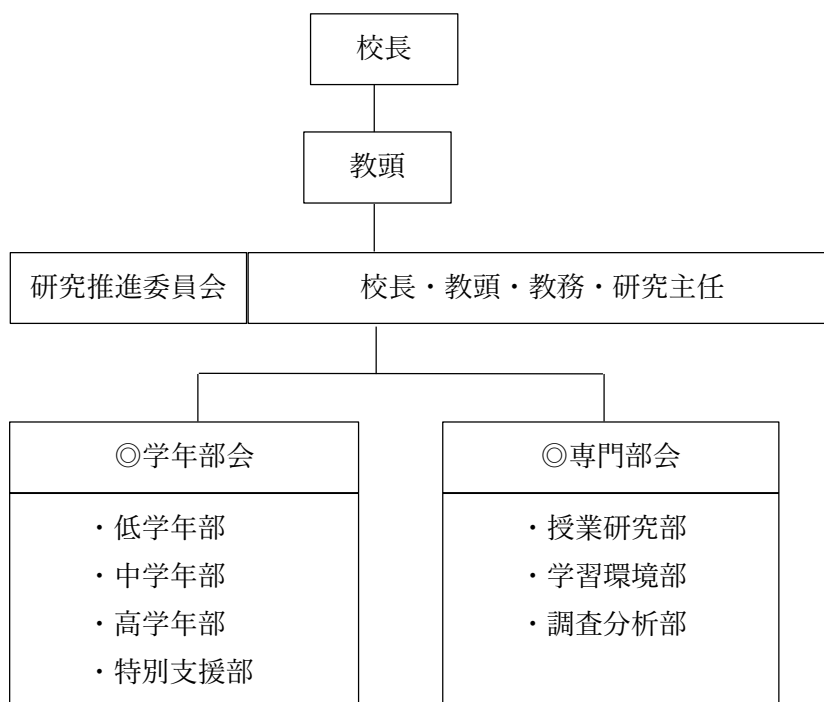
③ 学年部会

共同で教材研究をしたり指導案の検討をしたりして授業実践を行い，研究の具体的実践を進め，児童の資料などの収集整理をして，研究の成果の記録と研究資料の提供等を行う。

④ 専門部会

「授業研究部」「学習環境部」「調査分析部」を設定する。

(2) 組織の編成



7 研究計画

時期	内容
1 学期	○学力向上推進地域指定授業に関する共通理解 ○「授業づくりのステップ 1・2・3 vol.1 および vol.2」に関する共通理解 ○授業研究会（全体会）
夏休み	○各学年部を中心とした学習指導案・学習環境案・ICT推進案・意識調査案の作成① ○①を受けて専門部による取りまとめ
2 学期	○授業研究会（各学年部会） ○授業研究会（全体会） ○公開授業【11月22日（火）】 ○児童の意識調査
3 学期	○学年部会のまとめ ○研究のまとめと来年度の方向性